



寝取られ夫婦の回想録

あの日
告白した
君が
寝取られ妻
になっ
て80人もの男
に股を開く
なんて
考えも
しなかつた

八ヶ岳昌司

付き合い出したばかりの頃の昌志と真悠子のスペック

彼氏、昌志

十八歳。吹奏楽部に所属し、成績はわりと良い

本当はかなりのヘタレであることに自分で気が付いていない

女性経験 一人（真悠子を相手に童貞喪失したばかり）

将来の夢 真悠子と結婚し、子供を二人作って幸せな家庭を持つこと

真悠子のことを心から愛している

彼女、真悠子

十八歳。吹奏楽部に所属し、成績は昌志よりも良い

本当はかなりの美人であることに自分で気が付いていない

男性経験 一人（昌志に処女を捧げたばかり）

将来の夢 社会の役に立つ仕事につくこと。昌志と結婚したいが、子供はいなくてもいい

昌志のことを心から愛している

そこは暗い部屋の中でした。

部屋の窓には木の板が張られ、中の様子は外からは見えません。

電気の通っていないその部屋には明かりはなく、かわりに懐中電灯のライトの光が、部屋の中を照らしていました。

時間はもう深夜の二時を過ぎているでしょうか。

私の大事な恋人である真悠子は、懐中電灯の薄明かりの中、床に敷かれたジャンパーの上で四つん這いの格好になっていました。

真悠子の後ろには中年の男性がいました。白いシャツ一枚になった男性は、不安定な中腰の姿勢で腰を浮かせたまま、真悠子の腰を抱えて息をはずませています。シャツの下から中年男性の太ったお腹がのぞき、そしてその男性の毛深い下腹部の下には、固く屹立したものがそそりたち、それは真悠子の女性の部分に出たり入ったりを繰り返していました。

真悠子は腰にページュのスカートが残っているだけのほとんど全裸の姿になっていました。

中腰の姿勢で腰を浮かせた男性は、ページユ色のスカートをまくりあげられて丸出しになった真悠子のお尻を抱えて後ろから挿入し、息をはずませながら早いペースでかくんかくんと腰を動かしています。真悠子の白いパンツは左足のスニーカーのところにはひっかかり止まったままで、白かったパンツは埃だらけのコンクリートの上でひきずられて汚れてしまっています。

男性の息づかいと、下半身がぶつかるばんばんという音、そして真悠子の漏らす「んっ、んっ」という声が響く中、懐中電灯の明かりの中に真悠子のあらわになった上半身が映し出され、真悠子の胸がときおり男性の手によつてもまれる様子が見えます。

そして息をはずませていた男性が「んふっ、んふっ、おおおー」という声とともに動きを止め、真悠子の中にこの夜二度目の射精がおこなわれました。

男性が自分のものを引き抜き、行為の終わった余韻を味わう間もなく、懐中電灯を持っていく男性が自分の番を催促します。背の高く髭の生えた細身の男性は懐中電灯となりの男性に渡すと、射精を終えた中年男性に変わって真悠子の後ろに立ち、かちやかちやとズボンのベルトを外しました。

部屋の中にいる男性は四人。そして背の高い男性はうづくまった真悠子の胸をもみしだき、振り向かせてキスをしたかと思うと、床に敷かれたカーデガンとジャケツトの上に真悠子を仰向けにし、真悠子の足を開いて挿入しました。これで部屋にいる男性全員が真悠子と結ばれた

ことになります。

男性全員。たった一人、がくがくと震えながら股間のものを握って立ち尽くしている私を除いては。

私はすでにズボンを下ろして下半身が露出した情けない姿になっており、「真悠子、真悠子……」とつぶやきながら自慰行為を繰り返していました。けれどももう3回も射精してしまつた後では、射精感だけで出るものも出ず、かろうじてたった一滴がぴゅつと飛び出るだけです。奇妙な射精の興奮で私は高揚してしまっていました。

もう男性たちも私を押さえつけたりする必要のないことをわかつていて、私が自慰行為をしてこの住む人のいない部屋の床を汚すのをそのままにしています。四人の男性が次々に真悠子と結ばれ彼女の身体の中に射精していく傍らで、私の精液だけが、この砂埃で汚れた廃屋の床の上に空しく放出されていました。

私達は無理矢理この誰もいない建物の中に連れ込まれたわけではありません。むしろ逆で、私と真悠子は自分たちからこの建物の中に入ったのです。

けれども、三十分ほどで出てくるつもりでいたこの建物の中から、私達は二時間以上も出る

ことができず、そして出て来た時には、真悠子は四人の男性の精液を子宮の中に受け止め、取り返しのつかないことになってしまっていたのでした。

私達が体験した寝取られセックスの中でも、一番大事なセックス、私達が結婚するきっかけとなったセックスについてお話ししたいと思います。

それは私達が二十四歳の時、季節は春のことでした。

桜も散り、連休も終わり、夜になっても肌寒くない時期になった頃、私達は夜の散歩に出たのです。

そこで、私はいけない出来心を起こしてしまったのです。

そして、その出来心を押さえることができませんでした。

私達は、十代の頃からの恋人同士でしたが、お互いが二十一歳の時に真悠子が浮気をして他の男性と一夜を過ごしてしまったことがきっかけで、寝取られの性癖に目覚め、彼氏公認で他

の男性たちに真悠子を抱いてもらうプレイをするようになりました。

けれども、真悠子の可憐さと、私達の若さのせいで、刺激を求め過ぎた私達は自分たちを守ることができず、男性たちに何度も中出しされた真悠子は望まない妊娠をして中絶を経験したのです。

それでも、私の性癖はおさまらず、真悠子が他の男によつて妊娠と中絶を経験したせいで、かえつて私は妄想に悩まされるようになり、そして真悠子も男性たちとするセックスの楽しさを拒むことができなかつたのか、ピルを服用してさらにハードなプレイをするようになってしまいました。男性たちはすべて中出しで、真悠子は三、四人の男性と一晚中セックスをして、朝までに数えきれない射精を中にされるといふプレイを何度も行つたのです。

けれどもその後、性病に感染してしまうと、私達は冷静になり、自分たちがいかに危険なことをしていたことに気が付いたので。そして、私達はふたたび仲の良い普通のカップルとして、他人をまじえず、普通の性生活をするようになりました。

私達が結婚を意識するようになったのもこの頃です。

元々、学生だった頃からお互いに将来を誓い合つた恋人同士でしたので、いずれは結婚する

つもりでしたが、そのことを具体的に考えて、その時期や人生計画について話し合うようになったのはこの頃でした。

普通の性癖の人たちや、普通のカッパルから見るとおかしいかもしれませんが、二人とも裸になって男性たちと何度も激しいプレイを経験し、それらの経験を二人で乗り越えると、私達は以前にもまして仲の良い恋人同士になっていました。

そして、この時の二人だけで愛し合う静かな生活は、とても幸せなものでした。

けれども、心のどこかでは、私の妄想はいまだに渦巻いており、私は真悠子のいない時には、それまでのプレイで撮影した真悠子の裸の写真や、真悠子が何人もの男性とセックスしてしまうビデオを見て、興奮してオナニーしていたのです。

それらの写真やビデオを見て、真悠子が男性に中出しされた様子を思い出し、そして私は真悠子が他の男によって妊娠させられるシーンを想像します。そうやって、私は言いようのない興奮と快感を覚えていたのです。

そう思うと、ある意味ではこの日の事件は、私の妄想と願望が、すべて一度に実現してしまった出来事だったのです。

ただ、それが予定外のタイミングで起こってしまったというだけでした。

私達はこの事件の前にも、そして結婚してから今までも、たくさんの男性たちといろんなプレイを体験してきました。

車の中で三人の男性に真悠子をまわされてしまったこともあります。

雑居ビルの非常階段で会ったばかりの男性に真悠子に挿入されてしまったことがあります。

雨の日、夜の川原で五人の男性と、ずぶぬれになりながら真悠子はセックスをしてみました。

けれどもそれは基本的に、合意の上でおこなったプレイです。

本当の意味で、見ず知らずの男性に偶然に出会い、レイプされたと言えるのは、私達にはこの時だけでした。

もつとも真悠子本人に聞いてみれば、それは覚悟の上で行った合意のセックスだったと言うかもしれません。

そして、それは私達にとっていちばん忘れられないセックスのひとつなのです。

当時、私達が同棲していたマンションは、駅から少し離れたところにありました。

首都圏からいくぶん離れた、ベッドタウンとも呼べる地域でしたが、少し駅から離れてしまふと、とたんに寂しくなり、お店の明かりも少なくなりました。

普段はバスを使つて通勤するのですが、時折、私はバスを使わずに、三十分ほどかけて歩いて自宅に帰ることがありました。

その途中で、私はあるものを見つけたのです。

それは、倒産した会社の事務所か何かの、打ち捨てられた建物でした。

敷地にはゲートが閉ざされ、その門のところには「管理物件」と書かれていました。

おそらくは倒産した会社のオフィスの跡地を、どこかの不動産業者などが管理しているのでしょう。

建物はさびれて敷地には草が生い茂り、そして窓には木の板が張られていました。

どのくらいの間、この建物は放置されているのでしょうか。

その、どこことなく荒れて、寂しい雰囲気、私はぞくつとし、そして、知らない間に、心の

中のある部分を、刺激されていきました。

そこは、駅から自宅へ帰るための、車の通る道に面しており、近くにコンビニもありましたが、その前を何度も通るたびに、次第に私の中では、ある妄想が膨らんでいたのです。

それは、その誰もいない寂れた建物の中で裸にされ、見ず知らずの男性に犯される真悠子の姿でした。

真悠子に何を言つて、どういった経緯で一緒に夜の散歩に出たのかは覚えていません。けれども、コンビニに行くような気軽な感じで、私と真悠子は家を出ました。

そして気が付けば家から十五分ほどの箇所にあるその建物の近くに、私達は来ていたのです。真悠子はラフな格好のまま、私について来ましたが。真悠子は私がエッチな下心が目的で誘い出したことは当然わかっていたと思います。今までに何度も一緒にエッチなプレイをしてきているので、私が妄想でむらむらとしていたことはきつと真悠子にも伝わっていたことでしょう。真悠子はそれに応えて、どこかでエッチな行為をするのだという暗黙の了解の上で、真悠子は私と散歩に出かけたのです。

(体験版ここまで)

© 八ヶ岳昌司 2019年

ブログ寝取られと純愛(現在休止中)

ntrllove.com

表紙絵 ジュエルセイバーFREE

<http://www.jewel-s.jp>